

遺伝子組換え作物を考える 大規模対話フォーラム

2008年8月9日(土)
9:30~18:00

傍聴者募集

遺伝子組換え作物対話フォーラムプロジェクトでは、当プロジェクトの対話の集大成の場として「大規模対話フォーラム」を開催します。4月26日には、当プロジェクトの一環として「道民円卓会議」が開催され、各「対話小フォーラム」で積み重ねられてきた議論をもとに「北海道の農業をどうデザインするか」「科学者・行政に求める役割」「選択の自由」という3つの課題を決定しました。「大規模対話フォーラム」では、討論チームがこの3つの課題を検討し、さらに傍聴者との意見交換を行ったうえで、遺伝子組換え作物に関する共同宣言文を作成します。これは後日「遺伝子組換え作物を考える大規模対話フォーラム」実行委員会を通して道に提出されます。この共同宣言文を作成する際にご意見をいただける傍聴者の方々を、下記の要領により募集します。

* 傍聴者の方々には、午後から3つの課題ごとに分かれて討論していただいた後、討論グループとの意見交換を行っていただきます。

■日時：2008年8月9日（土）9：30～18：00

■会場：北海道庁赤れんが庁舎
（札幌市中央区北3条西6丁目）

■募集人数：50名（応募者が募集人数を上回った場合は抽選を行います）

■応募資格：次の条件を満たす方

- ①高校生以上の方
- ②遺伝子組換え作物に興味をお持ちの方
- ③道内在住の方
- ④「傍聴者の方へのお願い」をご了承いただける方

「傍聴者の方へのお願い」

* 本フォーラムの進行や対話の妨げになるような言動はお控えください。そのような言動があった場合には、ファシリテーターおよび実行委員会の判断により退場措置をとらせていただきますのであらかじめご了承ください。

* 本フォーラムは、新聞社やTV局等の取材を受け当日の様子が映像もしくは記事により報道される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

■応募締切：2008年7月24日（木）必着

■通知方法：7月31日までに、応募いただいた方全員に結果をお知らせします。

■参加費用：無料

■申込み方法：次の必要事項をご記入の上、ハガキ、ファクシミリ、電子メールのいずれかの方法で応募先へお送りください。

- ①氏名 ②所属または職業
- ③連絡先（住所または電話番号）
- ④性別 ⑤年齢

* 応募の際に収集した個人情報は、今回のフォーラムに関する用途以外に使用することはありません。

■応募先：

<はがき> 〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目
北海道大学大学院農学研究院生物化学
「大規模対話フォーラム傍聴者募集」係
<FAX> 011-706-2497

（冒頭に「傍聴希望」と明記してください）

<電子メール> gmtaiwa@chem.agr.hokudai.ac.jp
（件名を「傍聴希望」としてください）

■問い合わせ：

<電話> 011-706-2497

<電子メール> gmtaiwa@chem.agr.hokudai.ac.jp
（件名を「傍聴問い合わせ」としてください）

■プログラム：

- 9：30 開会
- 9：35 これまでの経緯と議論の進め方
- 10：00 討論グループによる3つの課題についての検討
- 12：30 昼食
- 13：20 宣言文作成のための議論
 - 14：30～15：30 傍聴者によるグループ討論
 - 15：45～16：30 傍聴者と討論グループによる意見交換
- 17：30 共同宣言文発表
- 18：00 閉会

* 傍聴者の方々は、朱書きの部分に参加していただきます。

対話フォーラムの目的

今日、私たちは科学技術の発展によって種々の恩恵を受けています。しかし、科学技術は私たちの生活に多くの利便性をもたらすだけでなく、様々な危険性やリスクももたらします。よって、新しい技術の導入の是非を考えるときには、常にマイナス面も考慮する必要があります。科学技術を社会に適用していくためには、科学技術についての理解を深めるとともに、社会全体で適切にコントロールすることも必要です。ここ北海道では、数年来、遺伝子組換え作物の栽培をめぐる、多くの議論が行われてきました。しかし様々な立場の人が、一定の共通理解をもちながら議論を進めていく場はいまだ作り出されていないように思われます。

本プロジェクトは、遺伝子組換え作物に関わる様々な利害関係者の間に横たわる相互理解の不足を、「対話」によって埋めることを目的にしています。研究者、消費者、生産者、食品加工・流通業者、地域住民、マスコミ関係者など、できるだけ多くの、様々な立場の方々が同じテーブルについて、お互いの意見を尊重しあい、けっして結論を急ぐことなく議論を積み重ねていく過程で、この目的は達成されると考えられます。

この対話フォーラムは、特定の結論を得ることを目指すものではありません。むしろ、こうした議論の積み重ねの中で、何らかの共通理解を得ようとするものです。また、こうして得られた共通理解が政策に反映されていくことを期待しています。

